

安比高原ブナ二次林

・森林浴の森 日本一〇〇選（1986年）
・遊歩百選（2002年）
・未来に残したい日本の草原（2003年）

初夏 6月上旬

岩手北部森林管理署と岩手県八幡平市とは、「あっぱ高原遊々の森」（面積181.29ha）として「中のまきば」、「ブナ二次林」を中心とした森林環境教育や体験活動の場として利用できる協定を締結しています。

林野庁では、国有林をフィールドとして提供する「遊々の森」の設定を推進しています。

交通のご案内

東北自動車道／松尾八幡平ICより約25分
安代ICより約30分

JR花輪線・IGRいわて銀河鉄道

／最寄駅「安比高原駅」から7.6km
（無人駅・公共交通機関はありません。）

「荒屋新町駅」からタクシーで約25分

■安代観光タクシー ☎0195-72-2535

「平館駅」からタクシーで約25分

■平館タクシー ☎0195-74-2525

タクシー利用の際は、事前予約がおすすめです。



秋 10月上旬

二次林

二次林とは、本来その土地にあった森林が、台風や噴火などの自然災害や伐採などによって裸地となり、その後、自然に再生した森林をいいます。地元の人たちが「前のまきば」「中のまきば」「奥のまきば」と呼んでいる安比高原。この芝生高原を取り囲むようにブナの二次林が広範囲に分布しています。

ここは、古くから、地元の人たちの木炭や漆器等の材料にするため伐採されました。その際、1ヘクタール当たり数本の母樹や、のこぎりで伐採できないような大きな木が残されたといわれています。それらが親木となり、種子が落ちて発芽し、再生しました。

当時は牛馬の林間放牧も盛んに行われていたため、ブナの稚樹の育成をさまたげるササ等の競争相手が採食されたことも、育成にとって好都合だったといわれています。

一般社団法人 八幡平市観光協会

〒028-7303 岩手県八幡平市柏台一丁目28番地

TEL 0195-78-3500 FAX 0195-78-3838

<https://www.hachimantai.or.jp/>

E-mail: kanko@hachimantai.or.jp

(R8.6)



安比高原ブナ二次林

安比高原ブナ二次林は平坦ですが、自然環境が異なる場所で季節ごとの自然散策が楽しめます。
春には新緑、夏には山野草やセミの羽化、秋には落ち葉のじゅうたん、いつ訪れても見どころがあります。

4月下旬～芽吹き
5月中旬～新緑
6月下旬～ギンリョウソウ
10月上旬～紅葉

〈お出かけ前に〉

森には人と動物が共存しており、安比高原ブナ二次林でも熊の生息が確認されています。森を歩く際は「熊鈴」などを携帯し、自分の存在を知らせながら歩くことをお勧めします。貴重な生態系です。ゴミを捨てない、動植物を持ち帰らない等のマナーを守り観察しましょう！



奥のまきばの解放された雲囲気から、うっそうとしたコメツガの林を進むと滝があり、まったく違った雲囲気がみられます。奥のまきばから徒歩30分。

奥のまきば
黒滝コース
入り口

↓ 至 茶臼岳・安比岳

森の広場

巨木の森
樹齢200～300年といわれる巨木がたくさんあります。

焼野のまきば

なだらかな斜面で林内には20m毎に標識があります。

奥のまきば

火山活動による岩塊が積み重なってできた台地のくぼみに水がたまってできた池塘群が広がる高層湿原です。季節毎に美しい高山植物が見られます。
6月上旬～新緑
7月上旬～ヤナギラン、ミズギク
8月中旬～コバギゴシン、エンリンドウ など

白いブナ林

木もれ日があたって白く輝くことからついたものです。

ハートの小路
看板

奥のまきば

巨木を育む森

ここには、マザーツリーと呼ばれる、ブナの巨木があります。ブナは300年しないうちに風で倒れたり枯れたりすることが多く、巨木があまりないと言われていました。

↑ 至 JR兄畑駅
安比兄川グリーンライン

大型バス
Uターン所
入口は二次林の看板が目印。
駐車場は2台程度。



Cを抜けると、
視界が開けます。

ぶなの駅



駐車場30台分(大型バス駐車可)あり、トイレ(オストメイト設備)や水場、休憩施設があります。利用は無料、4月下旬から11月上旬まで利用可能です。

アッテラス (高見台)



中のまきばは春から夏には一面に天然芝が広がります。

中のまきば

4月下旬～アズマギク
5月中旬～ミネザクラ
6月上旬～レンゲツツジ
7月上旬～ヤナギラン など

至 茶臼岳
登山口 ↓



散策コース例



奥のまきば・黒滝コース

奥のまきば入口 1 km 黒滝
約 30 分

自然環境保護の為、
マナーを守りましょう。

野芝草原の再生へ ～安比高原ふるさと倶楽部の活動～

安比高原の自然環境を次世代につなぎ、地域の活性化を目的に関係団体など市民で構成されています。馬による芝草原の復元調査と研究、放牧実験、植生調査、藪の刈り払いのほか、「遊々の森」を活用し自然環境保全事業、普及啓発が行われています。